

テクノロジーと法の未来へ

Vol.27

FACULTY OF GLOBAL INFORMATICS

国際社会が抱える問題を「情報の仕組み」と「情報の法学」の視点で分析・解明し、解決策を論理的に構築する、iTL独自の学びに迫ります。

待望の交換留学

2023年8月からの1年間、私は長年の目標であった留学をデンマーク・コペンハーゲン大学で実現しました。高校時代はコロナ禍により留学プログラムの参加は諦めざるを得なかったのですが、大学2年次後期から2セメスター交換留学がない、学業の面でも生活の面でも「新しい」ことを経験し、刺激の多い日々を過ごしました。人口が日本の20分の1と少なく、世界で2番目に幸福



国際情報学部国際情報学科3年
私立中央大学高等学校(東京都)出身

浅井 未蘭

DXとヒュッゲの国 デンマークでの成長の1年

な国デンマーク。そこで私が実際に学び、感じたことの一部をご紹介します。

DX先進国デンマーク

私が留学先としてこの国を選んだ理由は、やはり「国全体がデジタルテクノロジーを積極的に活用しているデジタル先進国だから」です。iTLで情報分野について学んでいた私は、デジタル政府ランキングで首位を獲得するほどDXが発展しているデンマークの社会のシステムに興味があり留学を決めました。

実際にデンマークで学習・生活してみても、世界一のデジタル化をこの国が実現した背景には、「国民が少なく人件費削減のために国規模で動いた」ことと「デジタルへの移行に多くのインセンティブを導入した」ことがあったのだとわかりました。現



コペンハーゲンの観光地ニューハウンにて



名物のオープンサンドであるスモーブローは絶品!

金を一切必要としない完全キャッシュレス社会や、公的手続きや政府からの連絡をインターネットで完結させ、たった一つのアプリで本人確認を行うデジタル社会には、iTL生として感銘を受ける日々でした。一方、スマートフォンやパソコン等の媒体を紛失するとさまざまな制限がかかったり、システムの不調で人間を介する場合は必要以上に時間がかかったりする不便さも経験しました。

大学での学びと生活

デンマーク最古の歴史を誇るコペンハーゲン大学では、デンマーク文化に加えてテクノロジー経済やプラッフトフォームカルチャーを学びました。

私が履修した授業は1回3、4時間のクラスで、ディスカッションやグループプロジェクトの時間が長く設けられており、プレゼンテーションを披露する機会も多くありました。事前に論文を読み、修士の学生も含めたクラスで活発に意見交換をする中で、学びに対して貪欲な学生たちに触発されて有意義なキャンパスライフを送りました。その結果、みずから発言したり、現地の学生と2カ月かけて約17ページの共同エッセイを書いたりするようになり、これまでの学習に対する姿勢を見直す良い機会にもなったと思います。

また同時並行で履修していた須藤ゼミではAIやブロックチェーン、行動経済学について学び、留学先で学んだ関連分野の内容の共有や、オンラインでの意見交換を通して、さらに考えを深めることができました。居住者の9割がデンマーク人の寮生活は、彼らの文化や価値観を毎日肌で感じる非常に貴重な経験の場でした。何年間もその寮に住んでいる学生で既にできあがったコミュニ



デンマークの伝統的なクリスマスディナー



ハイキングの後はみんなでのんびり日光浴



年越しパーティーにて、キッチンの友人たちと

ティに、デンマーク語が話せない立場として飛び込んで打ち解けるには序盤こそ苦労しましたが、この国の文化であるお酒と一緒に飲むことでだんだん距離を縮めることができました。

そして同じキッチンを使っている13人のグループでは、スウェーデンに3泊4日でドライブ旅行をしたり、サウナやボルダリング、ミニゴルフと一緒に楽しんだりしました。また、キャンプファイヤーをしたり、クリスマスディナーを食べたり、お互いの誕生日にはデンマークのしきたりにならって国旗を振りながら全員で朝起こしに行ったりなど、充実した寮生活を送ることができました。私たちのキッチンを使って開催したパーティーでは、ドリンクの考案からパーティーの運営、DJの準備や宣伝まで、すべてを12人の仲間と担当。このパーティーを、仲間と助け合いながら無事成功させたことが一番の思

い出です。年齢・国籍・ジェンダー関係なく喜怒哀楽を共にし、本音で相談し合える友人に出会うことができたと感じています。

ヒュッゲから得た新たな視野

皆さん、「Hygge (ヒュッゲ)」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。これは好きな人と一緒に楽しい安らぎの時間を過ごす、という意味のデンマーク人が日常で大切にしている価値観のことです。普段は仕事や勉強に集中していても時にはしっかりと切り替え、太陽の下で何もしない時間を作ったり、友達とゆっくり編み物や読書をしながら話す時間を大切にしたりと、「Hygge」の考えに沿ったデンマーク人の生活はとても印象的でした。

また彼らの「本当にしたいことをする」「本当にしたいことを見つけるまで探す」姿勢や、ジェンダーや戦争、環境問題に意識を向け行動に

移す姿勢から、私自身の視野も広がり、今までの「当たり前」をもう一度考え直すきっかけになりました。

20歳という節目の1年間にわたる交換留学は、デンマークの文化や価値観を学べただけではなく、人生におけるかけがえない貴重な、最も濃い経験になったと思います。残り1年半の大学生活、そして社会にで

た後も、この経験を無駄にせず過ごし、留学を検討している方の後押しができたと思っています。

最後にはなりますが、留学期間を含め支えていただいた須藤先生と斎藤先生、ITL事務室と国際センターの方々、また須藤ゼミ生にこの場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。